

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 17日は、高気圧が日本の東へ移動する。前線が華中から日本の南にのびる。
- 18日から19日かけて、高気圧が日本のはるか東でゆっくり移動する。前線は東シナ海から日本の南を通過して日本の東にのびる。
- 20日から21日にかけて、前線が東シナ海から日本の南を通過して日本の東にのびる。

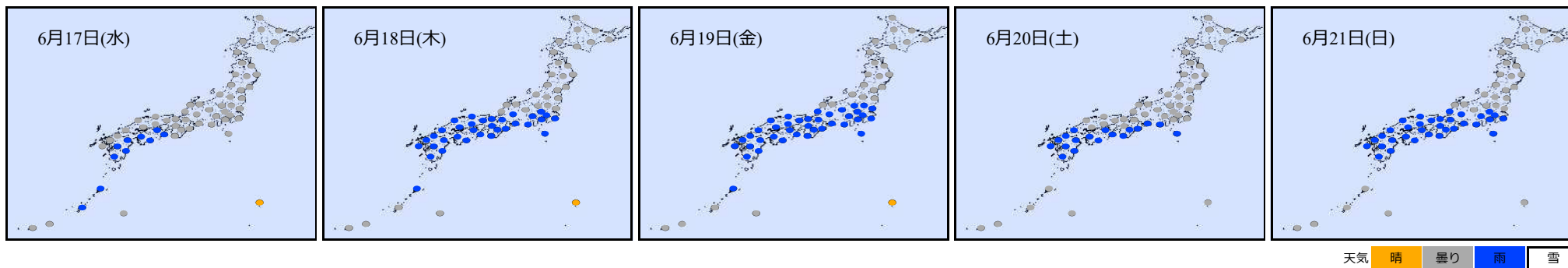
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- なし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

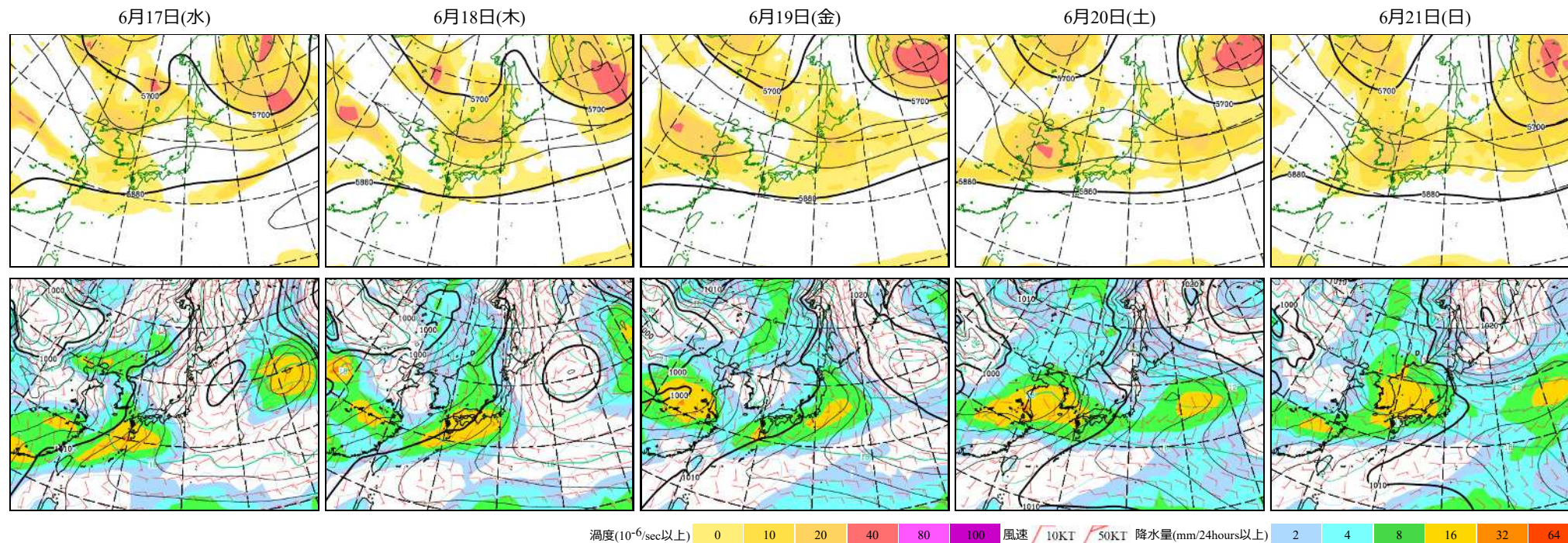
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

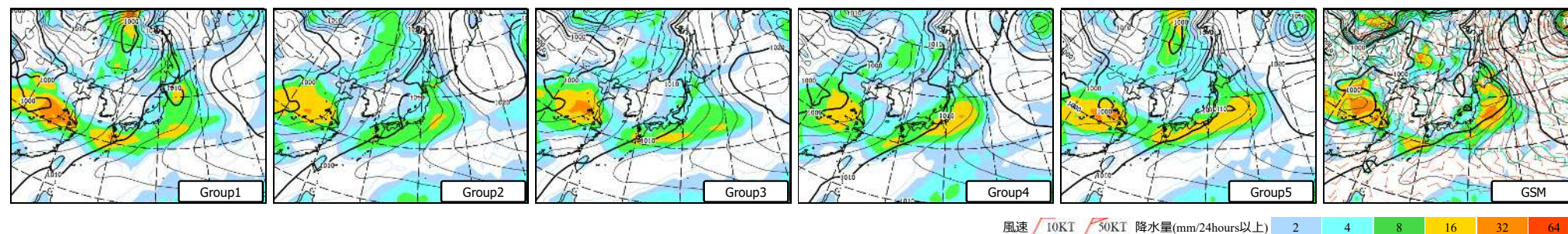


- 北日本は、曇りの日が多い。
- 東日本、西日本、沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆6月19日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、18日以降はサハリン~千島近海付近のリッジが強まり、日本の東~日本のはるか東の高気圧が強まる傾向となった。
- モデル間の差は、17日までは小さいが18日以降は大きく、前線の位置は、日本モデルは日本海から本州沿岸付近を通るが、海外モデルはより南側に予想している。
- スプレッドは、期間の終わりで大きく、特定高度線のばらつきが見られる。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考えるが、海外モデルも参考にする。

今日から明日までの解説は「短期予報解説資料」を参照ください。